

卒業時アンケートの結果概要について

教育推進部門長 岡本 吉央

1. 趣旨

大学教育センター、アドミッションセンター及び IR 室では、平成 30 (2018) 年度から、学生思考力調査 (アセスメントテスト及びアンケート聴取) を実施している。

同調査は、学生の「思考力」「姿勢・態度」「経験」を測定し大学で身につけるべき力の可視化を行うことで学生自身が主体的な学びを進めるための動機付けを促すとともに、調査結果を集計・分析し、教育の内部質保証の実質化、学生の満足度測定等の基礎データとして活用することとしている。

本資料は、同調査の一環として令和 3 (2021) 年度に実施したアンケート聴取のうち、卒業研究に着手している学域 4 年次生、修士論文に至る研究を実施している博士前期課程 2 年次生、博士論文に至る研究を実施している博士後期課程 3 年次生の回答を集計し、結果を分析したものである。なお、学域 4 年次生に対するアンケートは平成 30 (2018) 年度に開始し、博士前期課程 2 年次生と博士後期課程 3 年次生に対するアンケートは令和 2 (2020) 年度に開始したため、経年の比較も併せて行う。

2. アンケート実施の概要

調査期間	2022 年 2 月 19 日 – 2022 年 3 月 24 日
調査対象者	卒業研究に着手している学域 4 年次生 (回答数 142) 博士前期課程 2 年次生 (回答数 89) 博士後期課程 3 年次生 (回答数 14)
調査方法	学生思考力調査 (GPS-Academic) の一環として実施 学生は Web システムを利用して回答
質問数	大設問 28 問 (大設問それぞれに対して小節門を多数設定)
質問内容	教育全般、授業内容、学生支援、施設環境等

3. アンケート集計結果の概要

3.1 大学の魅力

「大学全体」の魅力として、「自分が学びたい学問分野が学べる」、「カリキュラムや学び方に魅力・特色がある」、「取りたい資格や免許が取得できる」、「教わりたい教員がいる」、「留学支援が充実している・国際交流が盛んである」、「就職に有利、就職支援が充実している」、「知名度がある」、「歴史・伝統がある」、「キャンパス・学生の雰囲気が良い」、「施

設・設備が充実している」、「キャンパスの立地や周辺の環境がよい」、「自宅から通える」、「学費が安い、奨学金が利用できる」、「総合大学である・単科大学である」、「女子大である・共学である」、「その他」、「特にない・わからない」の18項目から1位と2位を選択することを求めた。

1位＋2位選択率が高かった上位3項目は、学域4年次生においては、「自分が学びたい学問分野が学べる」(58.5%)、「就職に有利、就職支援が充実している」(51.4%)、「学費が安い、奨学金が利用できる」(23.2%)であった。経年変化を見ると、上位3項目は2018年度、2019年度、2020年度の調査においても、順位を含めて同じであった。博士前期課程2年次生においては、「自分が学びたい学問分野が学べる」(67.4%)、「就職に有利、就職支援が充実している」(44.9%)、「学費が安い、奨学金が利用できる」(14.6%)であった。経年変化を見ると、上位3項目は2020年度の調査においても、順位を含めて同じであった。博士後期課程3年次生においては、上位3項目が「自分が学びたい学問分野が学べる」(64.3%)、「教わりたい教員がいる」(28.6%)、「就職に有利、就職支援が充実している」(28.6%)であった。経年変化を見ると、上位3項目は2020年度の調査においても、順位を含めて同じであった。ただし、2020年度の調査では、同率3位が「自宅から通える」であった。

「学問内容や学び方」に関する魅力として、「学ぶことができる学問分野・領域に特色がある」、「教養教育が充実している」、「専門科目を低学年から学べる」、「専攻やコースなどを入学後にじっくり選ぶことができる」、「語学教育が充実している」、「資格や免許取得の支援が充実している」、「キャリア形成支援・キャリア教育が充実している」、「フィールドワークや実習が多い等、教育内容や方法が実践的である」、「厳しい環境やカリキュラムで鍛えられる」、「丁寧に指導してくれる、教員との距離が近い」、「少人数教育であるため、学びやすい」、「その他」の12項目から1位と2位を選択することを求めた。

1位＋2位選択率が高かった上位3項目は、学域4年次生においては、「学ぶことができる学問分野・領域に特色がある」(55.6%)、「専攻やコースなどを入学後にじっくり選ぶことができる」(36.6%)、「特にない・わからない」(24.6%)であった。経年変化を見ると、以前はここで挙げた3項目以外に「厳しい環境やカリキュラムで鍛えられる」も選択率が高かったが(2020年度25.4%)、2021年度においては20.4%と、選択率が下降した。博士前期課程2年次生においては、「学ぶことができる学問分野・領域に特色がある」(64.0%)、「専攻やコースなどを入学後にじっくり選ぶことができる」(29.2%)、「厳しい環境やカリキュラムで鍛えられる」(23.6%)であった。経年変化を見ると、前年度に比べて、「学ぶことができる学問分野・領域に特色がある」の選択率は大幅に下降し(2020年度73.0%)、その一方で、「厳しい環境やカリキュラムで鍛えられる」の選択率は大幅に上昇した(2020年度15.1%)。博士後期課程3年次生においては最も選択率の高かった項目は「学ぶことができる学問分野・領域に特色がある」であった(42.9%)。次点は選択率が21.4%の「教養教育が充実している」、「専門科目を低学年から学べる」、「厳しい環境やカリキュラムで鍛えられる」、「丁寧に指導してくれる、教員との距離が近い」、「特にない・わからない」

であった。経年変化を見ると、「学ぶことができる学問分野・領域に特色がある」(2020年度 60.0%)、「フィールドワークや実習が多いなど、教育内容や方法が実践的である」(2020年度 20.0%、2021年度 0.0%)の選択率が大幅に下降し、「教養教育が充実している」(2020年度 15.0%)、「専門科目を低学年から学べる」(2020年度 5.0%)、「少人数教育であるため、学びやすい」(2020年度 5.0%、2021年度 14.3%)の選択率が大幅に上昇している。

3.2 目標・カリキュラム・授業内容の理解

4つの設問「科目間の関連やカリキュラムの全体像を理解できている」、「大学は、シラバスやガイダンスなどで個々の授業内容に対する情報を十分に提供している」、「あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う」、「所属する学部・学科の教育目標(どのような人材の育成を目指しているか)を知っている」に対して、「非常にあてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」の4段階で回答を求め、「非常にあてはまる」と「ややあてはまる」と回答した割合を肯定回答率とした。

学域4年次生に対して、2020年度と比較すると「科目間の関連やカリキュラムの全体像を理解できている」の肯定回答率は上昇した(2020年度 83.1%、2021年度 86.6%)。一方で、「所属する学部・学科の教育目標(どのような人材の育成を目指しているか)を知っている」の肯定回答率は下降した(2020年度 62.7%、2021年度 59.8%)。博士前期課程2年次生に対して、「あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う」(2020年度 96.1%、2021年度 91.0%)と「所属する学部・学科の教育目標(どのような人材の育成を目指しているか)を知っている」(2020年度 71.0%、2021年度 62.9%)の肯定回答率が下降した(他は僅かに上昇した)。博士後期課程3年次生に対して、上記4設問に対する肯定回答率はそれぞれ 85.7%、100.0%、92.8%、50.0%であった。

3.3 入学後のイメージ変化

「よくなった」、「変わらない」、「悪くなった」の3段階で回答を求めた。

学域4年次生において、「よくなった」は2018年度 21.7%、2019年度 26.6%、2020年度 28.8%、2021年度 28.9%と若干上昇した。「変わらない」は2018年度 57.8%、2019年度 50.0%、2020年度 54.8%、2021年度 61.3%と、一旦下降し今年度大きく上昇した。「悪くなった」は2018年度 20.5%、2019年度 23.4%、2020年度 16.4%と、2021年度 9.9%と、一旦上昇し今年度大きく下降した。

博士前期課程2年次生において、「変わらない」の選択率が最も高く(59.6%)、これは2020年度(53.9%)から上昇した。一方で、「よくなった」(2020年度 40.8%、2021年度 37.1%)と「悪くなった」(2020年度 5.3%、2021年度 3.4%)の選択率は下降した。

博士後期課程3年次生において、「変わらない」の選択率が最も高く(57.1%)、これは2020年度(50.0%)から上昇した。一方で、「よくなった」の選択率は下降し(2020年度 50.0%、2021年度 35.7%)、「悪くなった」の選択率は上昇した(2020年度 0.0%、2021年度 7.1%)。

3.4 成長実感

4段階で回答を求め、以下「強く実感する」と「やや実感する」の合計を肯定回答率、「あまり実感しない」と「まったく実感しない」の合計を否定回答率とする。

学域4年次生において、肯定回答率は2018年度84.0%、2019年度83.8%、2020年度83.0%、2021年度85.9%であり、否定回答率は2018年度15.9%、2019年度16.3%、2020年度16.9%、2021年度14.1%であった。細かく見ると、「強く実感する」の回答率は、2018年度32.3%、2019年度29.8%、2020年度36.7%、2021年度38.0%であり、上昇傾向が見られた。

博士前期課程2年次生において、肯定回答率は2020年度94.8%、2021年度86.6%であり、否定回答率は2020年度5.3%、2021年度13.4%であった。特に、「やや実感する」の選択率が大きく下降し（2020年度46.1%、2021年度36.0%）、「あまり実感しない」の選択率が大きく上昇した（2020年度4.6%、2021年度11.2%）。

博士後期課程3年次生において、肯定回答率は2020年度90.0%、2021年度100.0%であり、否定回答率は2020年度10.0%、2021年度0.0%であった。

3.5 学部・学科のお勧め度

4段階で回答を求め、以下「とても勧めたい」と「まあ勧めたい」の合計を肯定回答率、「あまり勧めたくない」と「まったく勧めたくない」の合計を否定回答率とする。

学域4年次生において、肯定回答率は2018年度65.4%、2019年度68.6%、2020年度67.8%、2021年度78.9%であり、否定回答率は2018年度34.6%、2019年度31.3%、2020年度32.2%、2021年度21.1%であり、2021年度に肯定回答率が大きく上昇した。一方で、「とても勧めたい」の回答率は、2018年度9.5%、2019年度10.3%、2020年度15.3%、2021年度16.2%であり、微増に留まった。

博士前期課程2年次生において、肯定回答率は2020年度84.2%、2021年度85.4%であり、否定回答率は2020年度15.8%、2021年度14.6%であった。博士後期課程3年次生において、肯定回答率は2020年度100.0%、2021年度85.7%であり、否定回答率は2020年度0.0%、2021年度14.2%であった。

3.6 大学教育・学生生活への満足度

9項目「カリキュラム（入学から卒業までの科目配置や履修の体系）」、「授業内容」、「教員」、「語学教育・語学力向上支援」、「留学・国際交流支援」、「キャンパス環境・学生サービス」、「就職・進路支援」、「友人との人間関係」、「学生窓口対応」に対して、「とても満足している」、「まあ満足している」、「あまり満足していない」、「まったく満足していない」、「わからない・該当しない」の5段階で回答を求めた。「とても満足している」と「まあ満足している」の選択率を肯定回答率、「あまり満足していない」と「まったく満足していない」の選択率を否定回答率とする。

学域4年次生において、肯定回答率の高い上位3項目は「授業内容」（88.8%）、「カリキュラム（入学から卒業までの科目配置や履修の体系）」（88.7%）、「教員」（84.5%）であり、肯定回答率の低い下位3項目は「留学・国際交流支援」（21.8%）、「語学教育・語学力向上

支援」(48.6%)、「学生窓口対応」(49.2%)であった。一方、否定回答率の高い上位3項目は「語学教育・語学力向上支援」(41.6%)、「キャンパス環境・学生サービス」(30.3%)、「留学・国際交流支援」(21.1%)であり、否定回答率の低い下位3項目は「授業内容」(8.4%)、「カリキュラム」(9.1%)、「就職・進路支援」(9.9%)であった。

学域4年次生の経年変化において特筆する事項は以下の通りである。「カリキュラム」の肯定回答率が上昇し(2018年度67.3%、2019年度60.3%、2020年度79.1%、2021年度88.7%)、否定回答率が下降した(2018年度31.5%、2019年度36.5%、2020年度18.6%、2021年度9.1%)。「授業内容」の肯定回答率が上昇し(2018年度70.7%、2019年度71.4%、2020年度83.6%、2021年度88.8%)、否定回答率が下降した(2018年度28.2%、2019年度25.8%、2020年度15.8%、2021年度8.4%)。「教員」の肯定回答率が上昇し(2018年度71.5%、2019年度71.4%、2020年度76.8%、2021年度84.5%)、否定回答率が下降した(2018年度27.0%、2019年度25.0%、2020年度22.6%、2021年度12.7%)。「語学教育・語学力向上支援」の肯定回答率が上昇し(2018年度32.7%、2019年度35.7%、2020年度40.1%、2021年度48.6%)、否定回答率が下降した(2018年度60.8%、2019年度58.3%、2020年度54.8%、2021年度41.6%)。「留学・国際交流支援」の肯定回答率が下降した(2018年度23.9%、2019年度29.4%、2020年度32.2%、2021年度21.8%)。「キャンパス環境・学生サービス」の否定回答率が下降した(2018年度44.1%、2019年度44.4%、2020年度37.3%、2021年度30.3%)。「友人との人間関係」に対して「とても満足している」と回答した割合が上昇している(2018年度31.6%、2019年度27.4%、2020年度31.1%、2021年度35.2%)が、その一方で、否定回答率も上昇している(2018年度12.2%、2019年度16.3%、2020年度14.1%、2021年度18.3%)。

博士前期課程2年次生において、肯定回答率の高い上位3項目は「授業内容」(91.0%)、「カリキュラム」(86.6%)、「教員」(82.0%)、肯定回答率の低い下位3項目は「留学・国際交流支援」(34.8%)、「語学教育・語学力向上支援」(53.9%)、「キャンパス環境・学生サービス」(60.6%)であった。一方、否定回答率の高い上位3項目は「語学教育・語学力向上支援」(32.6%)、「キャンパス環境・学生サービス」(28.0%)、「学生窓口対応」(19.1%)であり、否定回答率の低い下位3項目は「授業内容」(6.7%)、「就職・進路支援」(7.8%)、「カリキュラム」(10.1%)であった。

博士前期課程2年次生の経年変化で特徴があるのは次の点であった。「授業内容」の肯定回答率が上昇し(2020年度84.9%、2021年度91.0%)、否定回答率が下降した(2020年度13.8%、2021年度6.7%)。「語学教育・語学力向上支援」の肯定回答率が上昇し(2020年度41.4%、2021年度53.9%)、否定回答率が下降した(2020年度49.4%、2021年度32.6%)。「留学・国際交流支援」の肯定回答率が上昇し(2020年度30.2%、2021年度34.8%)、否定回答率が下降した(2020年度22.4%、2021年度13.5%)。「キャンパス環境・学生サービス」の肯定回答率が下降した(2020年度71.1%、2020年度60.6%)。「友人との人間関係」の肯定回答率が下降した(2020年度83.6%、2021年度76.4%)。「学生窓口対応」の肯定回答率が上昇した(2020年度55.3%、2021年度61.8%)。

博士後期課程3年次生において、肯定回答率の高い上位3項目は「教員」(71.4%)、「授業内容」(64.3%)、「友人との人間関係」(64.3%)であり、肯定回答率の低い下位4項目は「留学・国際交流支援」(42.8%)、「語学教育・語学力向上支援」(42.9%)、「キャンパス環境・学生サービス」(50.0%)、「就職・進路支援」(50.0%)であった。一方、否定回答率の高い上位5項目は「語学教育・語学力向上支援」(35.7%)、「就職・進路支援」(28.6%)、「カリキュラム」(28.5%)、「授業内容」(28.5%)、「キャンパス環境・学生サービス」(28.5%)であり、否定回答率の低い下位4項目は「友人との人間関係」(14.3%)、「教員」(21.4%)、「留学・国際交流支援」(21.4%)、「学生窓口対応」(21.4%)であった。

博士後期課程3年次生の経年変化において顕著な傾向として以下のものが見られた。「カリキュラム」の肯定回答率が大幅に下降し(2020年度95.0%、2021年度57.1%)、否定回答率が大幅に上昇した(2020年度5.0%、2021年度28.5%)。「授業内容」の肯定回答率が大幅に下降し(2020年度80.0%、2021年度64.3%)、否定回答率が上昇した(2020年度20.0%、2021年度28.5%)。「教員」の肯定回答率が下降した(2020年度80.0%、2021年度71.4%)。「語学教育・語学力向上支援」の肯定回答率が下降し(2020年度50.0%、2021年度42.9%)、否定回答率が大幅に上昇した(2020年度25.0%、2021年度35.7%)。「キャンパス環境・学生サービス」の肯定回答率が大幅に下降し(2020年度90.0%、2021年度50.0%)、否定回答率が大幅に上昇した(2020年度10.0%、2021年度28.5%)。「就職・進路支援」の肯定回答率が下降し(2020年度55.0%、2021年度50.0%)、否定回答率が大幅に上昇した(2020年度10.0%、2021年度28.6%)。「学生窓口対応」の肯定回答率が大幅に下降し(2020年度70.0%、2021年度57.1%)、否定回答率が大幅に上昇した(2020年度10.0%、2021年度21.4%)。

3.7 教育施設の利用度

6項目に対して、「非常によく利用する」、「まあ利用する」、「あまり利用していない」、「まったく利用していない」、「施設がない」の5段階で回答を求めた。「非常によく利用する」と「まあ利用する」の選択率を肯定回答率、「あまり利用していない」と「まったく利用していない」の選択率を否定回答率とする。

学域4年次生において、「ラーニングコモンズなどの学習支援施設」の肯定回答率は33.8%、否定回答率は64.1%であり、「図書館(蔵書、レファレンスサービス)」の肯定回答率は70.4%、否定回答率は29.5%であり、「パソコンルーム」の肯定回答率は41.6%、否定回答率は58.4%であり、「語学学習センター」の肯定回答率は3.5%、否定回答率は89.4%であり、「実験室・演習室」の肯定回答率は47.9%、否定回答率は52.1%であり、「研究室」の肯定回答率は77.4%、否定回答率は22.5%であった。

学域4年次生の経年変化を見ると、全般的に施設の利用度が低下してきている。例えば、「研究室」に対する「非常によく利用する」の選択率は、2018年度80.2%、2019年度76.2%、2020年度55.9%、2021年度55.6%と下降している。

博士前期課程2年次生において、「ラーニングコモンズなどの学習支援施設」の肯定回答率は26.9%、否定回答率は68.5%であり、「図書館(蔵書、レファレンスサービス)」の肯

定回答率は 68.5%、否定回答率は 30.3%であり、「パソコンルーム」の肯定回答率は 33.7%、否定回答率は 64.0%であり、「語学学習センター」の肯定回答率は 10.1%、否定回答率は 80.9%であり、「実験室・演習室」の肯定回答率は 48.3%、否定回答率は 50.5%であり、「研究室」の肯定回答率は 89.9%、否定回答率は 7.8%であった。

博士前期課程 2 年次生の経年変化においても、「研究室」に対する「非常によく利用する」の選択率が下降していた（2020 年度 85.5%、2021 年度 77.5%）。一方で、「図書館」に対する「非常によく利用する」の選択率は上昇していた（2020 年度 14.5%、2021 年度 23.6%）。

博士後期課程 3 年次生において、「ラーニングコモンズなどの学習支援施設」の肯定回答率は 14.3%、否定回答率は 78.5%であり、「図書館（蔵書、レファレンスサービス）」の肯定回答率は 64.3%、否定回答率は 35.7%であり、「パソコンルーム」の肯定回答率は 35.7%、否定回答率は 57.2%であり、「語学学習センター」の肯定回答率は 14.2%、否定回答率は 78.5%であり、「実験室・演習室」の肯定回答率は 35.7%、否定回答率は 64.3%であり、「研究室」の肯定回答率は 100.0%、否定回答率は 0.0%であった。

博士後期課程 3 年次生の経年変化においては、「研究室」に対する「非常によく利用する」の選択率は上昇していた（2020 年度 75.0%、2021 年度 78.6%）。他にも、「図書館」の肯定回答率の上昇（2020 年度 55.0%、2021 年度 64.3%）、「パソコンルーム」の肯定回答率の上昇（2020 年度 25.0%、2021 年度 35.7%）と否定回答率の下降（2020 年度 75.0%、2021 年度 57.2%）等が見られた。

3.8 授業の役立ち度

「論理的・批判的思考力」、「数量的・統計的スキル」、「情報リテラシー」、「問題解決力」、「チームワーク・リーダーシップ」、「プレゼンテーションスキル」、「ディスカッションスキル」、「コミュニケーションスキル」、「文章作成力」、「語学力」の 10 項目に対して、4 段階で回答を求めた。「とても役に立っている」と「まあ役に立っている」の回答率の合計を肯定回答率とした。

学域 4 年次生において、肯定回答率の高い上位 3 項目は「数量的・統計的スキル」(92.3%)、「情報リテラシー」(90.8%)、「問題解決力」(89.4%) であり、肯定回答率の低い下位 3 項目は「チームワーク・リーダーシップ」(42.3%)、「語学力」(43.7%)、「コミュニケーションスキル」(61.3%) であった。経年変化を見ると、2020 年度に比べて肯定回答率が大幅に上昇したのは、「語学力」(2020 年度 29.9%、2021 年度 43.7%)、「コミュニケーションスキル」(2020 年度 50.3%、2021 年度 61.3%)、「文章作成力」(2020 年度 73.4%、2021 年度 81.7%) であった。ただし、「語学力」については 2019 年度の肯定回答率が 40.5% であったことを付記しておく。

博士前期課程 2 年次生において、肯定回答率の高い上位 4 項目は「情報リテラシー」(93.3%)、「数量的・統計的スキル」(92.1%)、「問題解決力」(85.4%)、「文章作成力」(85.4%) であり、肯定回答率の低い下位 3 項目は「チームワーク・リーダーシップ」(56.2%)、「語学力」(56.2%)、「コミュニケーションスキル」(68.5%) であった。経年変化を見ると、2020 年度に比べて肯定回答率が大きく上昇したのは、「語学力」(2020 年

度 47.4%、2021 年度 56.2%) と「文章作成力」(2020 年度 79.6%、2021 年度 85.4%) であった。

博士後期課程 3 年次生において、肯定回答率の高い上位 5 項目は「論理的・批判的思考力」(92.9%)、「数量的・統計的スキル」(92.9%)、「情報リテラシー」(85.7%)、「問題解決力」(85.7%)、「ディスカッションスキル」(85.7%) であり、肯定回答率の低い下位 3 項目は「チームワーク・リーダーシップ」(64.3%)、「語学力」(64.3%)、「文章作成力」(71.4%) であった。経年変化を見ると、2020 年度に比べて肯定回答率が大きく上昇したのは、「ディスカッションスキル」(2020 年度 75.0%、2021 年度 85.7%)、と「チームワーク・リーダーシップ」(2020 年度 55.0%、2021 年度 64.3%) であり、大きく下降したのは「文章作成力」(2020 年度 95.0%、2021 年度 71.4%)、「問題解決力」(2020 年度 95.0%、2021 年度 85.7%) であった。

3.9 授業・カリキュラム評価

6 項目に対して、A と B という対立する選択肢を提示し、「A にあてはまる」、「A にややあてはまる」、「どちらともいえない」、「B にややあてはまる」、「B にあてはまる」の 5 段階で回答を求めた。「A にあてはまる」と「A にややあてはまる」の回答率の合計を A 回答率とし、「B にあてはまる」と「B にややあてはまる」の回答率の合計を B 回答率とする。

「A 単位を楽に取れる授業がよい」と「B 興味のある授業がよい」に対して、学域 4 年次生では、A 回答率が 38.7%、B 回答率が 38.8% であった。経年変化を見ると、2018 年度から 2020 年度にかけて、A 回答率は漸減し、B 回答率は漸増していたが、2021 年度に A 回答率はやや上昇し (2020 年度 35.6%、2021 年度 38.7%)、B 回答率はやや低下した (2020 年度 46.3%、2021 年度 38.8%)。博士前期課程 2 年次生では、A 回答率が 32.6% (2020 年度は 30.3%)、B 回答率が 46.1% (2020 年度は 47.4%) であり、博士後期課程 3 年次生では、A 回答率が 7.1% (2020 年度は 40.0%)、B 回答率が 64.3% (2020 年度は 50.0%) であった。

「A 授業のレベルが高すぎる」と「B 授業のレベルが低すぎる」に対して、学域 4 年次生では、A 回答率が 31.0%、B 回答率が 6.3% であった。経年変化は A 回答率も B 回答率もほぼ横這いの傾向があった (2020 年度は A 回答率が 32.2%、B 回答率が 7.3% であった)。博士前期課程 2 年次生では、A 回答率 29.2% が (2020 年度は 36.2%)、B 回答率が 5.6% (2020 年度は 8.6%) であり、博士後期課程 3 年次生では、A 回答率が 7.1% (2020 年度は 30.0%)、B 回答率が 21.4% (2020 年度は 0.0%) であった。

「A 授業で出される課題が多く、負荷が高すぎる」と「B 授業で出される課題が少なく、負荷が低すぎる」に対して、学域 4 年次生では、A 回答率が 59.9%、B 回答率が 8.4% であった。経年変化を見ると A 回答率がやや上昇していた (2018 年度 55.1%、2019 年度 51.2%、2020 年度 57.6%、2021 年度 59.9%)。博士前期課程 2 年次生では、A 回答率が 46.0% (2020 年度は 43.4%)、B 回答率が 14.6 (2020 年度は 16.5%) であり、博士後期

課程3年次生では、A回答率が28.5%（2020年度は30.0%）、B回答率が14.2%（2020年度は15.0%）であった。

「A 教員との距離が近い」と「B 教員との距離が遠い」に対して、学域4年次生では、A回答率が31.7%（2020年度は29.4%）、B回答率が32.4%であった（2020年度は30.5%）。博士前期課程2年次生では、A回答率が39.4%（2020年度は42.1%）、B回答率が22.5%（2020年度は21.1%）であった。博士後期課程3年次生では、A回答率が35.7%（2020年度は45.0%）、B回答率が14.2%（2020年度は25.0%）であった。

「A 自由に意見を言ったり、議論したりする場が多い」と「B 自由に意見を言ったり、議論したりする場が少ない」に対して、学域4年次生ではA回答率が21.8%、B回答率が51.4%であった。経年変化を見ると、「Aにあてはまる」の回答率が減少し（2020年度7.3%、2021年度1.4%）、「Bにあてはまる」の回答率が上昇した（2020年度11.3%、2021年度14.1%）。博士前期課程2年次生ではA回答率が24.7%（2020年度29.7%）、B回答率が36.0%（2020年度45.4%）であり、博士後期課程3年次生ではA回答率が35.7%（2020年度35.0%）、B回答率が28.5%（2020年度30.0%）であった。

「A 周囲の学生の意識が高い」と「B 周囲の学生の意識が低い」に対して、学域4年次生ではA回答率が45.8%、B回答率が17.6%であった。経年変化を見ると、2020年度とほぼ同等であった（2020年度のA回答率は46.3%、B回答率は15.8%）。博士前期課程2年次生ではA回答率が44.9%（2020年度44.8%）、B回答率が14.6%（2020年度21.7%）であり、博士後期課程3年次生ではA回答率が14.3%（2020年度45.0%）、B回答率が35.7%（2020年度25.0%）であった。

3.10 力を入れたこと

「専門分野の勉強（採用試験対策のための勉強を除く）」、「教養を身につけるための勉強」、「卒業研究」、「語学に関する勉強」、「留学または留学のための準備」、「資格取得・スキル習得のための勉強」、「公務員・教員等の採用試験対策のための勉強」、「就職活動に向けた準備（業種・企業研究、人脈づくりなど）」、「クラブ活動（部活動）、サークル活動」、「友人や先輩・後輩など、人との交流」、「社会活動（ボランティア、NPOなど）」、「アルバイト」、「その他」、「特になし」の14項目から1位、2位、3位の選択を求めた。1位と2位と3位の選択率の合計を以下では選択率と呼ぶ。

学域4年次生では、選択率の高い上位3項目は「卒業研究」（80.3%）、「専門分野の勉強」（67.6%）、「クラブ活動（部活動）、サークル活動」（37.3%）であり、選択率の低い下位4項目は「公務員・教員等の採用試験対策のための勉強」（0.7%）、「社会活動」（2.8%）、「留学または留学のための準備」（3.5%）、「その他」（3.5%）であった。昨年度と比較すると、選択率が大幅に上昇したのは「卒業研究」（2020年度66.1%、2021年度80.3%）であるが、これは2020年度のアンケート実施が卒業研究終了前であるのに対して、2021年度のアンケート実施が卒業研究終了後であったことが影響しているかもしれない。ほかにも、選択率が大きく上昇した項目に「アルバイト」（2020年度22.0%、2021年度27.5%）、「専門分野の勉強」（2020年度63.3%、2021年度67.6%）があった。一方、選択率が大

幅に減少したのは「特にない」(2020年度13.0%、2021年度7.0%)、「語学に関する勉強」(2020年度8.5%、2021年度3.5%)、「教養を身につけるための勉強」(2020年度29.9%、2021年度25.4%)であった。

博士前期課程2年次生では、選択率の高い上位3項目は「卒業研究」(84.3%)、「専門分野の勉強」(62.9%)、「クラブ活動(部活動)、サークル活動」(42.7%)であり、選択率の低い下位4項目は「公務員・教員等の採用試験対策のための勉強」(1.1%)、「社会活動」(1.1%)、「その他」(3.4%)であった。博士後期課程3年次生では、選択率の高い上位3項目は「専門分野の勉強」(71.4%)、「卒業研究」(50.0%)、「教養を身につけるための勉強」(28.6%)であり、選択率の低い下位4項目は「公務員・教員等の採用試験対策のための勉強」(0.0%)、「社会活動」(0.0%)、「留学または留学のための準備」(0.0%)、「資格取得・スキル習得のための勉強」(0.0%)であった。

3.11 読書量

「月に4冊以上」、「月に2～3冊くらい」、「月に1冊くらい」、「ほとんど読まない」から選択を求めた。

学域4年次生では、「4冊以上」が5.6%、「2～3冊くらい」が14.1%、「1冊くらい」が26.8%、「ほとんど読まない」が53.5%であった。経年変化を見ると、「4冊以上」が下降の傾向を見せている(2018年度11.8%、2019年度13.9%、2020年度6.8%、2021年度5.6%)。一方で、「ほとんど読まない」が2020年度に比べて大幅に上昇した(2018年度43.0%、2019年度42.9%、2020年度40.1%、2021年度53.5%)。

博士前期課程2年次生では、「4冊以上」が11.2%、「2～3冊くらい」が10.1%、「1冊くらい」が38.2%、「ほとんど読まない」が40.4%であった。なお、2020年度ではそれぞれ5.9%、22.4%、39.5%、32.2%であった。博士後期課程3年次生では、「4冊以上」が14.3%、「2～3冊くらい」が28.6%、「1冊くらい」が14.3%、「ほとんど読まない」が42.9%であった。なお、2020年度ではそれぞれ10.0%、30.0%、45.0%、15.0%であった。

3.12 自習時間(週あたり)

「10時間以上」、「7～10時間未満」、「5～7時間未満」、「4～5時間未満」、「3～4時間未満」、「2～3時間未満」、「1～2時間未満」、「1時間未満」、「自習はしていない」の9項目から選択を求めた。

学域4年次生において、5時間以上を選択している割合は40.9%で、経年変化では2020年度まで上昇傾向があったが、2021年度は下降した(2018年度27.0%、2019年度42.4%、2020年度55.3%、2021年度40.9%)。一方、2時間未満を選択している割合は20.4%で、経年変化では2020年度まで下降傾向があったが、2021年度は上昇した(2018年度33.8%、2019年度27.0%、2020年度16.4%、2021年度20.4%)。

博士前期課程2年次生において、5時間以上を選択している割合は44.9%(2020年度は46.1%)で、2時間未満を選択している割合は20.2%(2020年度は18.4%)であった。

博士後期課程3年次生において、5時間以上を選択している割合は57.1%（2020年度は60.0%）で、2時間未満を選択している割合は14.3%（2020年度は20.0%）であった。

3.13 学びへの取り組み

5項目について、「よくした」、「時々した」、「ほとんどしなかった」、「まったくしなかった」の4段階で回答を求めた。「よくした」と「時々した」の回答率の合計を肯定回答率とする。

学域4年次生において、各項目の肯定回答率は「必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む」が57.7%（2020年度は62.1%）、「授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する」が72.5%（2020年度は71.2%）、「板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる」が80.3%（2020年度は81.4%）、「授業の内容でわからないことは教員に質問や相談に行く」が36.6%（2020年度は44.6%）、「授業と関わりのないことでも、興味を持ったことについて自主的に学習する」が71.8%（2020年度は69.5%）であった。

博士前期課程2年次生において各項目の肯定回答率は、上に挙げた項目順でそれぞれ、62.9%、68.6%、76.4%、38.2%、76.4%（2020年度はそれぞれ62.5%、74.4%、86.9%、43.4%、78.3%）であり、博士後期課程3年次生では、64.2%、57.1%、92.9%、85.7%、100.0%（2020年度はそれぞれ55.0%、70.0%、90.0%、70.0%、85.0%）であった。

3.14 専門ゼミ・研究室への所属状況

学域4年次生では、「所属している」が98.6%であり、「応募したが、入れなかった」が0.7%、「応募しなかった」が0.7%であった。博士前期課程2年次生では、「所属している」が96.6%、「応募したが、入れなかった」が1.1%、「応募しなかった」が1.1%、「その他（ゼミ・研究室の制度はないなど）」が1.1%であった。博士後期課程3年次生では、「所属している」が92.9%、「応募しなかった」が7.1%であった。

3.15 身につけたい英語のレベル

レベルに応じて、「英語圏の大学・大学院への留学や、英語を使って仕事をする際に支障がないレベル」、「英語圏に長期滞在して生活するのに支障がないレベル」、「身の回りの話題に関してやりとりができ、海外ホームステイや短期の語学研修で楽しめるレベル」、「道順やメニューの説明など簡単な質問に答えられるレベル」、「英語を積極的に身につけようとは考えていない」の5段階から回答を求めた。

学域4年次生では、「身の回りの話題に関してやりとりができ、海外ホームステイや短期の語学研修で楽しめるレベル」が32.4%と最も多く、そこを中心にしてレベルの変化に対して回答率も減少している。経年変化では、「英語圏に長期滞在して生活するのに支障がないレベル」の回答率が2020年度に比べて大きく上昇した（2020年度19.2%、2021年度23.9%）。

博士前期課程2年次生では、「身の回りの話題に関してやりとりができ、海外ホームステイや短期の語学研修で楽しめるレベル」が46.1%（2020年度39.5%）と最も多く、その次の多いのが「英語圏に長期滞在して生活するのに支障がないレベル」の16.9%（2020年度16.4%）である。博士後期課程3年次生では、「英語圏の大学・大学院への留学や、

英語を使って仕事をする際に支障がないレベル」が 57.1%（2020 年度 35.0%）で回答率が最も高かった。

3.16 留学経験・留学意向

多くの学生に留学経験がなく、留学する意向もないが、その割合は減少していることが分かった。

学域 4 年次生では、「留学経験なし」が 78.2%であり、「留学はしたくない」が 48.6%であった。経年変化は「留学経験なし」について、2018 年度が 79.5%、2019 年度が 80.2%、2020 年度が 86.4%、2021 年度が 78.2%であり、「留学はしたくない」について、2018 年度が 46.4%、2019 年度が 43.3%、2020 年度が 55.4%、2021 年度が 48.6%であった。一方で、留学経験があるものの中では、「2 週間未満」が 7.0%（2020 年度は 2.8%）、「2 週間～4 週間未満」が 9.9%（2020 年度は 5.1%）と上昇していた。留学意向についても、2 週間未満から 1 年以上と幅があるものの、留学する意向があるという回答率は上昇していた（2020 年度 44.6%、2021 年度 51.4%）。

博士前期課程 2 年次生では、「留学経験なし」が 68.5%（2020 年度は 74.3%）であり、「留学はしたくない」が 42.7%（2020 年度は 44.7%）であった。博士後期課程 3 年次生では、「留学経験なし」が 50.0%（2020 年度は 45.0%）であり、「留学はしたくない」が 28.6%（2020 年度は 30.0%）であった。

3.17 大学納得度

「とてもそう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の選択を求めた。「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」の選択率の合計を肯定選択率とした。

学域 4 年次生では、肯定選択率が 2018 年度 86.3%、2019 年度 85.7%、2020 年度 87.6%とほぼ横ばい状態であったが、2021 年度は 91.5%であり、大きく上昇した。博士前期課程 2 年次生と博士後期課程 3 年次生の肯定選択率はそれぞれ 93.2%、85.7%（2020 年度はそれぞれ 95.4%、100.0%）であった。

3.18 興味関心の一致度

「一致している」、「一致していないが、興味関心に近い分野」、「興味関心とは異なる分野」、「まだ自分の興味関心がわからない」、「所属する学部・学科の学問内容がよくわからない」、「その他」から選択を求めた。

学域 4 年次生では「一致している」が 62.0%、「一致していないが、興味関心に近い分野」が 21.8%、「興味関心とは異なる分野」が 3.5%、「まだ自分の興味関心がわからない」が 12.0%、「その他」が 0.7%であった。経年変化では「一致している」が 2020 年度に比べて上昇した（2020 年度 58.8%、2021 年度 62.0%）。

博士前期課程 2 年次生では「一致している」が 74.2%、「一致していないが、興味関心に近い分野」が 14.6%、「興味関心とは異なる分野」が 4.5%、「まだ自分の興味関心がわからない」が 5.6%、「その他」が 1.1%であった。

博士後期課程3年次生では「一致している」が71.4%、「一致していないが、興味関心に近い分野」が21.4%、「興味関心とは異なる分野」が7.1%であった。

3.19 他大学の再受験や退学の検討

「検討したことはない」、「以前検討していたが、今は考えていない」、「現在、検討している」の3段階から選択を求めた。

学域4年次生では、「検討したことはない」が81.7%、「以前検討していたが、今は考えていない」が18.3%、「現在、検討している」が0.0%であった。経年変化は、「検討したことはない」が大きく上昇した（2020年度76.3%、2021年度81.7%）。

博士前期課程2年次生において、各項目の回答率は上記の順に78.7%、19.1%、2.2%であり、博士後期課程3年次生においては57.1%、35.7%、7.1%であった。

3.20 適応状況

3項目について、「非常にあてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」の4段階で回答を求めた。「非常にあてはまる」と「ややあてはまる」の回答率の合計を肯定回答率とする。

学域4年次生では、「勉強面／進路面で相談できる友人が学内にいる」が76.0%、「ちょっとしたことでも相談できる教員がいる」が56.3%、「大学の校風や雰囲気は、自分に合っている」が84.5%であった。経年変化に関して、「大学の校風や雰囲気は、自分に合っている」では肯定回答率の上昇傾向が見られた（2018年度79.5%、2019年度81.3%、2020年度82.5%、2021年度84.5%）。また、「ちょっとしたことでも相談できる教員がいる」の肯定回答率が2021年度に大きく上昇した（2018年度52.4%、2019年度49.2%、2020年度49.1%、2021年度56.3%）。

博士前期課程2年次生では各項目の肯定回答率は上記の順に68.5%、59.6%、86.5%であり、博士後期課程3年次生では42.9%、57.2%、85.7%であった。

3.21 困っていること

「困っていることはない」、「やりたいこと（就職・進路面）が見つからない」、「希望する進路に進めるか不安」、「授業についていけない」、「学びたいことが見つからない」、「学びたいことが学べていない」、「教員との人間関係」、「友人、異性、先輩・後輩との人間関係」、「経済的な事情」、「その他」の10項目を自由に選択することで回答を求めた。

学域4年次生において、回答率の高い上位3項目は「困っていることはない」（33.1%）、「やりたいこと（就職・進路面）が見つからない」（25.4%）、「希望する進路に進めるか不安」（21.1%）であった。経年変化を見ると、「困っていることはない」は2020年度に比べてやや下降した（2018年度30.4%、2019年度35.3%、2020年度35.6%、2021年度33.1%）。一方、2020年度から上昇した項目として顕著なものには、「友人、異性、先輩・後輩との人間関係」（2020年度2.3%、2021年度7.0%）がある。

博士前期課程2年次生では、回答率の高い上位3項目が「困っていることはない」（69.7%）、「その他」（9.0%）、「教員との人間関係」（6.7%）であった。2020年度に「経済的な事情」の回答率は7.2%であったが、2021年度は3.4%と下降した。博士後期課程

3年次生では、「困っていることはない」(50.0%)、「希望の進路に進めるか不安」(14.3%)「その他」(14.3%)、であった。

3.22 居住形態

学域4年次生では、「家族と同居」が59.2%、「一人暮らし」が35.2%、「寮」が4.9%、「それ以外」が0.7%であった。経年変化を見ると「家族と同居」が2020年度(51.4%)に比べて大きく上昇したことが分かる。

博士前期課程2年次生では、「家族と同居」が49.4%、「一人暮らし」が44.9%、「寮」が4.5%、「それ以外」が1.1%であった。2020年度に比べると「一人暮らし」が上昇していた(2020年度40.8%)。博士後期課程3年次生では、「家族と同居」が35.7%、「一人暮らし」57.1%、「寮」が0.0%、「それ以外」が7.1%であった。2020年度に比べると「一人暮らし」が上昇していた(2020年度35.0%)。

3.23 卒業後の進路

「企業・団体」、「公務員(教員・保育士を除く)」、「教員・保育士」、「専門資格職(教員・保育士を除く)」、「大学院進学」、「自営業(家業など)」、「起業」、「その他」、「未定」の項目から選択を求めた。

学域4年次生では「大学院進学」が65.5%で最も多く選択され、経年変化を見ると、2018年度は51.3%、2019年度は54.8%、2020年度62.7%であり、上昇していることが分かった。一方、「企業・団体」は2018年度38.0%、2019年度37.3%、2020年度29.4%、2021年度28.2%であり、下降していることが分かった。

博士前期課程2年次生では、「企業・団体」が77.5%で最も多く選択され、次点が「大学院進学」の11.2%であった。博士後期課程3年次生では、「企業・団体」が50.0%で最も多く選択され、次点が「その他」の21.4%であった。

3.24 専門領域と希望進路との関係

「大学で学ぶ専門分野と直結した職業に必ず就きたい」、「大学で学ぶ専門分野と直結した職業に就くことを望んでいるが、それ以外の職業でも構わない」、「大学で学ぶ専門分野と直結するかどうかにはこだわらない」、「大学で学ぶ専門分野とは関係のない職業に就きたい」、「その他」、「わからない・未定」から選択して回答することを求めた。

学域4年次生においては、各項目の回答率は上記の順に、17.6%、47.9%、29.6%、2.1%、0.0%、2.8%であった。経年変化を見ると、「大学で学ぶ専門分野と直結した職業に就くことを望んでいるが、それ以外の職業でも構わない」が上昇傾向にあることが分かった(2018年度41.4%、2019年度39.3%、2020年度45.8%、2021年度47.9%)。

博士前期課程2年次生においては、19.1%、44.9%、25.8%、2.2%、3.4%、4.5%であり、博士後期課程3年次生においては、42.9%、42.9%、0.0%、0.0%、7.1%、7.1%であった。

3.25 進路への準備状況

4項目に対して「非常にあてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」を選択することで回答を求めた。「非常にあてはまる」と「ややあてはまる」の選択率の合計を肯定回答率とする。

項目「自分の性格や行動パターン、得意分野などを理解している」に対して、学域4年次生の肯定回答率は88.7%であり、経年変化はほぼ横這いであった。博士前期課程2年次生では92.2%、博士後期課程3年次生では92.9%であった。

項目「社会や職業のことを知るために、毎日、ニュースをチェックしている」に対して、学域4年次生の肯定回答率は52.1%であり、経年変化は若干の上昇傾向にあった。博士前期課程2年次生では57.3%、博士後期課程3年次生では57.2%であった。

項目「自分が付きたい職業や仕事が明確になっている」に対して、学域4年次生の肯定回答率は46.5%であり、2020年度とほぼ同等であった。博士前期課程2年次生では82.0%、博士後期課程3年次生では85.7%であった。

項目「自分の将来就きたい仕事、やりたいことに向けて準備をしている」に対して、学域4年次生の肯定回答率は47.2%であり、経年変化は減少傾向にあった。博士前期課程2年次生では78.7%、博士後期課程3年次生では78.6%であった。

3.26 インターンシップの経験

「インターンシップには参加したことがない」と回答した割合が学域4年次生では73.2%と最も高かった。一方、博士前期課程2年次生では27.0%、42.9%であった。

インターンシップに参加したことがある中で、もっとも多い期間は、学域4年次生では「1～2日」(15.5%)、博士前期課程2年次生では「1～2日」(37.1%)、博士後期課程3年次生では「2週間を超える」(42.9%)であった。